

再興第109回

院展

茨城五浦展

2025年6月21日(土)－7月21日(月・祝)



山浦めぐみ 《A sight —45—》

【展覧会概要】(資料2～4ページ参照)

日本美術院は明治31年(1898年)、岡倉天心を中心に横山大観、下村観山、菱田春草ら気鋭の若手日本画家が参加し設立されました。大正2年(1913年)の天心の逝去後にはその精神を受け継いだ大観、観山らによって再興の機運が高まり、翌3年に再興日本美術院が発足します。以後、多くのすぐれた日本画家を輩出するなど日本画壇を牽引し続け、今年の9月には110回目の展覧会を迎えます。

当館が建つ茨城県北茨城市の五浦は、明治39年(1906年)に日本美術院第一部(絵画)の研究所が置かれたことから、近代日本画史に残る日本美術院ゆかりの地として知られています。再興第109回院展の全国巡回の最後を飾る茨城五浦展では、第一線で活躍する同人の作品をはじめ、日本美術院賞、奨励賞、さらに第30回天心記念茨城賞の受賞者から茨城ゆかりの作家等の作品まで、あわせて60点を紹介します。

茨城県天心記念五浦美術館

TENSHIN MEMORIAL MUSEUM OF ART, IBARAKI
〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿2083 Tel.0293-46-5311 Fax.0293-46-5711

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
標記の件につきまして、本書のとおりご案内申し上げます。

【開催概要】

- 1 展覧会名 「再興第109回院展 茨城五浦展」
- 2 会 期 令和7年(2025年)6月21日(土)～7月21日(月・祝)
休館日：毎週月曜日(ただし、7月21日[月・祝]は開館。)
- 3 会 場 茨城県天心記念五浦美術館 企画展示室A・B・C
- 4 主 催 茨城県天心記念五浦美術館／公益財団法人 日本美術院
- 5 後 援 朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／産経新聞社水戸支局／NHK水戸放送局／東京新聞つくば支局／
毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送／北茨城市／北茨城市教育委員会
- 6 入 場 料 一般950(820)円/満70歳以上470(410)円/高校生710(590)円/小中生360(240)円
※()内は、20名以上の団体料金
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方および付き添いの方1名は無料
※7月12日(土)は満70歳以上の方無料
※土曜日は高校生以下無料
- 7 出品数
日本画60点
- 8 主な出品作品
那波多目功一 《夕映の松》
手塚雄二 《霞野》
西田俊英 《妖精の森》
倉島重友 《月明かり》
井手康人 《月乃神》
國司華子 《不・言・楽》
山本浩之 《迷》
川崎麻央 《算》
樋田礼子 《井の頭 (11) —樹下生生—》
山浦めぐみ 《A sight —45—》
日本美術院賞 (大観賞)
日本美術院賞 (大観賞)・東京都知事賞
奨励賞・第30回天心記念茨城賞

9 本展のみどころ

(1) 日本画壇の重鎮たちの意欲作から若手日本画家の受賞作まで

2024年に文化勲章を受章した理事長・田淵俊夫、文化功労者となった那波多目功一(ひたちなか市出身)、上野・寛永寺根本中堂の天井絵制作が注目を集めた手塚雄二など重鎮たちによる意欲作をはじめ、日本美術院賞(大観賞)と東京都知事賞をダブルで受賞した樋田礼子の作品まで、昨年の日本画界で話題を集めた作家たちの作品をご覧ください。

(2) 天心記念茨城賞受賞の歴代作家から第30回の受賞者まで

茨城県は、平成7年(1995年)より次代を担う画家の育成と日本美術の発展に寄与することを目的に、院展に対し、「天心記念茨城賞」を提供しています。歴代の受賞者たちは、その後、院展で受賞を重ねて同人に推挙されるほか、個展や院展以外の展覧会でも注目を集めるなど、それぞれ着実に成果をあげています。本展でも屋久島の自然を壮大に描いた昨年の個展「不死鳥」で話題を集めた西田俊英(第2回受賞者)をはじめ、2度目の日本美術院賞(大観賞)受賞となった川崎麻央(第26回受賞者)、今回第30回の受賞者となった山浦めぐみまで、本県が注目してきた院展作家の現況をご覧ください。

(3) 茨城ゆかりの作家を一堂に

茨城県ゆかりの同人・倉島重友、國司華子、山本浩之らの作品をはじめ、今回奨励賞を受賞した水見剛、若手で注目される中村瞭佑まで、本県に関わりのある院展作家の活躍を一堂にご覧いただけるなど、茨城会場でしか見ることのできない作家のセレクトも本展の魅力のひとつです。

10 広報文

(1) 岡倉天心が創立し、横山大観らが再興した日本美術院による「院展」が日本美術院ゆかりの地・茨城県北茨城市の五浦で開催されます。再興第109回院展の全国巡回の最後を飾る茨城五浦展では、日本画壇の第一線で活躍する同人の作品をはじめ日本美術院賞、奨励賞、さらに第30回天心記念茨城賞の受賞者を含む茨城ゆかりの作家等の作品等、あわせて60点を紹介します。
(167字)

(2) 岡倉天心が創立し、横山大観らが再興した日本美術院による「院展」は現代まで続く伝統ある日本画の展覧会です。今回の茨城五浦展では茨城ゆかりの作家を含む厳選した60点の作品を紹介します。
(90字)

(3) 現代日本画の最高峰ともいえる「院展」が日本美術院ゆかりの地・茨城県北茨城市の五浦で開催されます。今回の茨城五浦展では茨城ゆかりの作家を含む厳選した60点の作品を紹介します。
(85字)

11 オープニングセレモニー

- ・開会式 6月20日(金)15:00～ 茨城県天心記念五浦美術館 企画展示室A入口
- ・主催者挨拶、テープカット
- ・内覧会 15:30～

12 会期中のイベント

(1) オープニングイベント

院展同人・倉島重友氏、山本浩之氏によるギャラリートーク及びサイン会

・ギャラリートーク

講 師：倉島重友氏(日本美術院同人)、山本浩之氏(日本美術院同人)

日 時：6月21日[土] 午前10時～午前10時50分

会 場：企画展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

・サイン会

※ギャラリートークを行った両氏が、再興第109回院展図録にサインします。

日 時：6月21日[土] 午前11時～(ギャラリートーク終了後)

会 場：エントランスロビー 定 員：先着50名

・茨城大学五浦美術文化研究所70周年記念事業 ※茨城大学五浦美術文化研究所との共催事業 クロストーク「日本美術院の系譜－五浦で岡倉天心を語る－」

講 師：手塚雄二氏(日本美術院同人／福井県立美術館特別館長)×小泉晋弥(当館館長)

日 時：6月21日[土] 午後2時～午後3時

会 場：講堂 定 員：80名(要事前申込)

※申込みは右のwebフォームからお願いします。

問合せ：茨城大学 社会連携課([TEL:029-228-8425](tel:029-228-8425))



(2) 実技講座「貝合わせを作ろう」 ※日本美術院地域連携教育プログラム

講 師：山本浩之氏(日本美術院同人／筑波大学准教授)

日 時：6月29日[日] 午後1時～午後5時

会 場：講座室 定員：12名 ※要事前申込、材料費は受講者負担

(3) 展覧会担当によるギャラリートーク

日 時：7月6日[日]、7月20[日] 各日午後1時10分～

会 場：企画展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

(4) ワークショップ「金の砂子de缶バッジ」

日 時：7月5日[土] 午前10時～、午後1時30分～

場 所：講座室 ※要企画展入場券[半券可]、当日先着順

定 員：各回20名程度

(5) 来て・見て・発見！アートツアーfor kids

日 時：7月19日[土] 午前10時～

会 場：企画展示室、講座室

定 員：小中学生と保護者5組 1組4名まで

※事前申込先着順、保護者のみ要企画展入場券

(6) 岡倉天心記念室 障壁画ツアー

日 時：6月29日[日] 午前10時～11時

会 場：岡倉天心記念室 定員：当日先着30名 ※要常設展当日入場券

(7) 映画会(五浦名画座)

日 時：7月13[日] 「冬冬の夏休み」(1984年/98分/カラー/台湾)

会 場：講堂 午前の部9時45分～、午後の部1時30分～(15分前開場)

定 員：各回114名 ※無料、当日受付先着順、全席自由

【広報用図版】 ※表紙の画像も提供可能です。



樋田礼子
《井の頭（11）—樹下生生—》



川崎麻央《算》



那波多目功一《夕映の松》



倉島重友《月明かり》



手塚雄二《霞野》



山本浩之《迷》

※図版使用に際しての注意

- ・ 展覧会の紹介を目的とする内容にのみご使用願います。
 - ・ 図版への文字乗せ、トリミング等の一切の加工はご遠慮ください。
 - ・ 図版使用の際は必ずキャプションを明記してください。
 - ・ 図版はデータでの提供となります。
- 広報担当まで連絡、または右のQRコードを
読み込んでリクエストしてください。



《問い合わせ先》

茨城県天心記念五浦美術館 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿2083

TEL:0293-46-5311 FAX:0293-46-5711

E-mail : kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp

展覧会担当：永宮 勤士（ながみや きんじ）／広報担当：大津 友美（おおつ ゆみ）

※本リリースの記載内容は、当館ホームページで随時紹介いたします。

(<https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>)

当館HPへ

